

たまきゅう便り

発行

多摩丘陵病院

広報委員会

町田市下小山田町

1491

多摩丘陵病院 整形外科 整形外科医 岩佐宜彦

2021年4月より多摩丘陵病院整形外科に赴任した岩佐宜彦と申します。

1986年に徳島で生まれ、高校時代は趣味の釣りで楽しんでおりました。

医師になってからも海が好きで体験ダイビングでウミガメと遭遇したことに感動し、ダイビンググライライセンス取得し、きれいな動物や景色を楽しんでおります。

現在当院整形外科では骨折、外傷を中心に整形外科全般の診断から治療までを行っています。高齢化社会に伴い骨粗鬆症をお持ちの患者様も増加しており、骨折の患者様も増加しています。

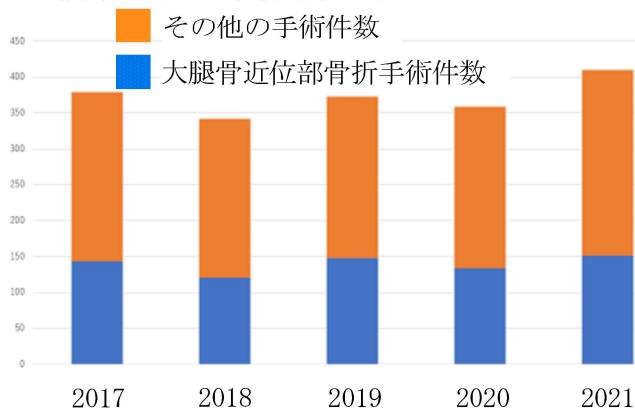
特に股関節の骨折（大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折）は当院での昨年手術の3〜4割を占めています。

また受傷後のADL低下や死亡率上昇が問題です。合併症予防と早期日常生活復帰の観点から、本骨折の治療ガイドラインでは、早期手術が推奨されています。また術後は、続けて発生しやすい反対側の大腿骨近位部の骨折や脊椎の圧迫骨折の予防のため、骨粗鬆症の薬物治療が必須です。

当院では、早期手術を始めとして、術後リハビリテーションや骨粗鬆症治療まで多職種で連携して治療を行っています。



大腿骨近位部骨折手術の占める割合



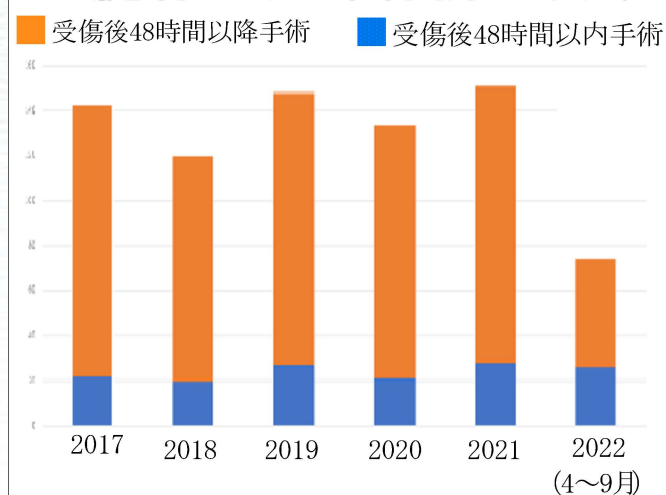
総手術件数の約40%が大腿骨近位部骨折が占める

高齢かつ多数の合併症を持った患者さんが多いため、治療には多面的な配慮が必要ですが、私たちは患者さんの早期日常生活復帰を目指しています。

- ・早期手術に向けての調整
- 入院後 早期の手術を目指して手術予定を組みます。予定手術の合間に手術を入れていくため、麻酔科と手術室スタッフとで調整を行います。
- ・実際の手術について
- 術後早期に歩行訓練ができるような手術を心がけています。骨折部の固定力が強い最新インプラントを採用しています。また人工骨頭置換術では外側アプローチを使用し術後脱臼予防も行っております。
- ・術後リハビリテーションと骨粗鬆症治療
- 手術翌日より、リハビリスタッフと一緒に離床訓練を開始し4日以内の全荷重立位を目指しております。また患者さんの骨粗鬆症を評価し、骨粗鬆症の薬物治療を開始します。

このように、早期手術から再骨折予防まで多職種連携の体制で取り組んでおり、昨年は179名の大腿骨近位部骨折の患者様のうち28名が48時間以内での手術を受けられております。

大腿骨近位部骨折手術数



患者さんの早期日常生活復帰に向けて今後も邁進いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

多摩丘陵病院

～言語聴覚療法科の紹介～

皆さんは、言語聴覚士(ST)という職種をご存じでしょうか？
言語聴覚士とは先天的・後天的な原因によって言葉や食べることに障害生じた方の機能回復等の支援をする国家資格の専門職です。

リハビリテーションのPTやOTに比べ人数は少ないですが、当院には現在、16名ものSTが在籍しており入院や外来、短時間通所リハビリでリハビリテーションサービスを提供しています。今回は当院のSTの業務の一部を紹介します。



飲み込みのリハビリ

飲み込みの障害は、脳梗塞等の脳血管疾患や長期臥床等に伴う筋力低下で起きます。STでは食事場面の観察・評価、VFやVE検査に同席して嚥下機能を見ています。その評価結果をもとにリハビリを行います。最近では、電気刺激機器を用いて筋力訓練をより効率的にできるようにもしています。



電気刺激で喉の筋力訓練



VF検査で飲み込みの評価

言葉のリハビリ

言葉の障害には舌や唇に麻痺が生じうまく発声発音ができない構音障害と、大脳の言語野が損傷し言葉を理解・表出することがうまくできなくなる失語症とがあります。構音障害に対しては口の運動リハビリ、失語症には言葉を理解・単語や短文を理解・表出するリハビリを行います。

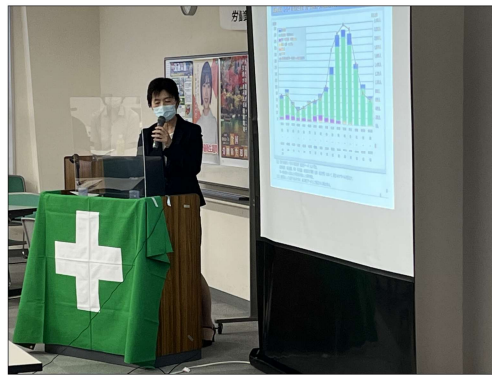


絵カードで言葉の理解訓練



舌の筋力訓練

失語症友の会「元気でやってる会」のお手伝いも行っています。失語症者やご家族で興味のある方は多摩丘陵STまでご連絡ください。



令和4年度「全国労働衛生週間説明会」にて講演を行いました

多摩丘陵病院 辻奈津美師長

令和4年9月16日、町田商工会議所にて町田労働基準監督署・町田労働基準協会の共催による令和4年度 全国労働衛生週間説明会が開催されました。

町田市内企業の労務担当者等が多数参加し、当院の看護師長で感染管理特定認定看護師の辻奈津美師長が「職場と家庭内の感染対策」～新型コロナウイルス感染症を中心にと題して講演を行いました。

新型コロナウイルスの流行状況、当院の感染予防体制や予防策の説明、新型コロナウイルスの感染成立と標準予防策、日常のケア、換気、密への対策、感染症全般の清掃、消毒方法等、今夕イムリーに皆様を知っておきたい事についての講演内容でしたので、参加された皆様も熱心にメモを取っておられました。

健康管理部の一員になりました よろしく願いいたします。医師 今泉知子

2022年4月1日より多摩丘陵病院の健康管理部の一員となりました今泉知子と申します。これまでは一般内科医として臨床に携わってききましたため、当然健康管理部でのお仕事は新規の内容も多くまだまだ修行中でございます。他の先生方のご指導のもとに地域のみなさまの健康管理・疾病の助言など少しでもお役に立てますよう努めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

さて近年は健康への意識も高まり日本人の寿命もさらに伸び、長寿大国となっています。実年齢より体内年齢を若く保ちながら、より有意義な元気な状態で長生きをする健康寿命をのばすことが大切です。とは言え年齢を重ねていくと様々な病気を発症するリスクが高まることは当然であります。ではどうすれば健康寿命をのばせるのでしょうか？ 個人的な意見ですが、まずは定期的に健診を受けることをお勧めします。身体は年齢とともに外観をはじめ体内環境も変化してきます。それらの変化を少しでも早く確認する手段の一つが健診であり、病気の発見や増悪の予防に役立てていただきたいと思います。今や日本人は人生100年時代と言われていますが、あまりよくばらずに元気に歳を重ねましょう、内臓を長持ちさせましょうをモットーに健診に努めています。次に2人に1人は「がん」になる時代と言われている中で、いかに早く「がん」を見つけるかです。胸部レントゲン検査、腹部超音波検査、便潜血検査、内視鏡検査（上部消化管）などを中心にしっかり受けていただくことだと思います。また男性では前立腺、女性では乳腺、婦人科などの疾患にも注意が必要です。最後は足腰を強く保つことです。すなわち適度な運動を継続し筋力を保つことだと思います（20分前後の少し息があがる運動習慣をお勧めしています）。多くの方に健診を受けていただき、日々元気にお過ごしいただけますようお役に立ちたいと思っています。